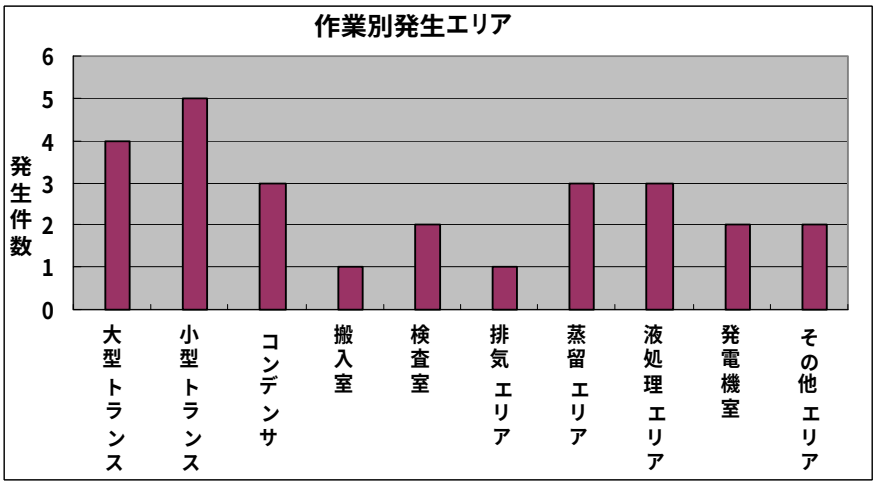
資料4－2

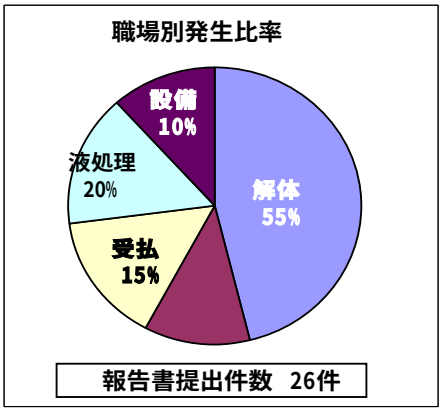
ヒヤリハット活動報告と対応状況

	平成19年（試運転前）				平成20年（試運転期間）				処理開始後		計
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
ヒヤリハット（件数）	2	0	1	2	6	7	2	9	4	2	35
きがかり（件数）									36	18	54

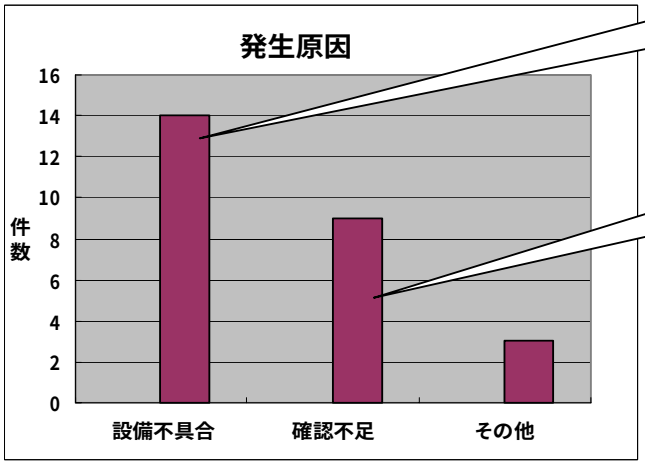
＊活動期間：平成19年9月～20年4月10日

1．職場別　ヒヤリハット発生件数



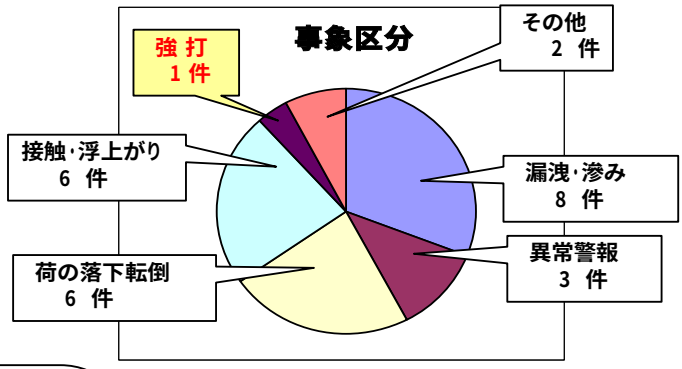


2．発生原因と傾向



・配管(ﾊﾟｯｷﾝ、ﾎﾞﾙﾄ)の締め付け不良　6件
・インタ-ロック、ﾘﾐｯﾄ不良　4件
・不安定、強度不足　4件

・工事関係者の確認不足　4件
・危険予知、指差し確認不足　2件
・点検確認不足　3件



3．ヒヤリハット活動のまとめ

1．職場別提出件数では、各クループ間でのヒヤリハット提出件数にバラツキが大きく、今後は指導を強化と提出しやすい環境づくりを行なう。

2．設備に関するヒヤリ件数が54%以上と多く、漏洩・荷の落下、転倒、接触、浮上がり等などが発生している。原因を追究すると、①設備上の欠陥 ②手順書の不備 ③確認不足等が列記できる。

3．今回の解析の中で、人災に繋がるヒヤリが1件(液処理突起部に足を強打)発生している。
今後、作業に慣れてくると人災に掬びつくヒヤリが発生するので、作業者の危険予知が重要である。

4．職場での水平展開活動

□作業エリアでの注意喚起・安全表示板は十分か。

□作業手順書の見直し・修正変更は都度、実施されているか。

□安全装置(ｲﾝﾀﾞ-ﾛｯｸ・ﾘﾐｯﾄ)は十分な機能が発揮しているか。

ミーテイク時に指示確認する。